



シンポジウムの趣旨説明をする大久保教授



島内代表者と講演者によるパネル討論

同寄付講座代表の大久保達也・工学系研究科教授が趣旨説明をした後、武内和彦・国連大学上級副学長が「自然共生社会の実現を目指して」、福士謙介・東京大学スマートエコアイランド研究拠点代表が「地域資源の利活用システムを設計する」と題して基調講演。その後、菊池康紀特任教授らによる展望講演、地元代表者らを加えたパネルディスカッションが行なわれた。

東京大学総括プロジェクト機構「プラチナ社会」総括寄付講座は、8月2日、鹿児島県西之表市のホテルニュー種子島で「自然と共生するスマートエコアイランド種子島シンポジウム」を開催、165名が参加した。また、同シンポジウムにおいて「種子島発芽フォーラム」が設立され、今後、継続的に活動を行なっていくこととなった。

同寄付講座は、同大が部局横断で全学的に

取組む寄付講座として2012年4月に総長室に設置され、エコで高齢者が積極的に参加し、一生を通じて人が成長を続け、雇用がある社会を意味する「プラチナ社会」を実現する為の理論的背景の整理、知の構造化による課題解決のフレームワークづくり等に関する研究を行っている。また、研究成果の「社会実装」を重視し、実際に各実施主体が実装できるようにその方法論の研究も行っている。

Ⅱ 東京大学総括プロジェクト機構Ⅱ シンポジウム「自然と共生するスマートエコアイランド」